

コロナ禍の学校運営について

(質問) コロナ禍の学校運営において、オンライン授業および特別支援学級における課題と対応はどうなっているのか。また、給食と食育についての考え方はどうか。

(答弁) オンライン授業は子どもたちの学びを止めないという観点から実施し、分散登校を利用し学習プリントの配布や回収を行った。入力などについては個人差があった。特別支援学級では視覚として分かるように足跡マークの活用などの対応を行った。給食は感染症対策を徹底して実施し、食育を通して望ましい食習慣を身に付けていきたい。



Cバスについての28回目

(質問) 交通利便性向上のため、一ノ宮地区における実証実験の結果の検証、市民へのアンケートの実施、個人からの協賛金の募集などによりCバスの再編、見直しを検討してはどうか。

(答弁) 市民へのアンケートなどを行う。一ノ宮地区における実証実験の結果は、今後、地域主体の移動手段を導入する際の参考とする。個人からの支援は、他市の事例を研究する。海岸部への路線拡充を含むCバスの路線見直しは、路線全体を見直す中で検討を進める。

その他の質問 ○高岡水管橋についての2回目



農業政策について

(質問) ①本市の農業の状況は。②中山間部の基盤整備は可能か。③地産地消の取り組みは。④学校給食における地元農産物の活用は。

(答弁) ①農業者数は3,788戸で10年前と比較し1,275戸減少、農業産出額は約200億円で5年前と比較し約32億円増加。②地域や集落全体の十分な協議と合意が得られれば不可能ではない。③鈴鹿市地産地消推進計画に基づき、茶など鈴鹿産農林水産物のPR、食農教育、白ネギ栽培支援、アサリの放流などを実施している。④令和2年度は米は100%、中学校給食の野菜は重量ベースで41.1%が鈴鹿産である。



子どもの見守りについて

(質問) 登下校時や放課後に地域ボランティアの方々に子どもの見守りをいただいているが、年々高齢化・担い手不足が課題と聞く。既に15万人の子どもの見守りに活用されているICTシステムを導入し、担い手の確保と安心なまちづくりに活用してはどうか。

(答弁) ICT機器やインターネット環境を活用した児童生徒の見守りサービスについては、子どもたちの安全安心の確保の一助となり得るシステムであるため、期待できる効果や課題について、調査・研究を進めていく。



将来を担う子どもたちの届かない支援について

(質問) 学校で生きづらさを感じ、そのために学校に行けない児童生徒は令和2年度全国で19万6,127人で前年度比1万4,855人増の過去最多。学校での学習や集団活動に困難を抱え不登校になる例が多い。本市での不登校相談は令和2年12月時点で前年度比1.5倍。民間のフリースクールなどの施設への支援、財源をどう確保するのか。

(答弁) 民間のフリースクールなどへの文部科学省による支援措置はなく、本市教育委員会においても支援は行っていない。一方、全国の公益財団が、NPO法人などが行う事業に対して補助を行う場合がある。



障がい児を取り巻く環境について

(質問) 医療的ケア児およびその家族に対する支援に関する法律が令和3年9月に施行された。市は、日中一時支援事業での重度加算制度の創設の検討を進めるとあるが、現在は一日基本単価6,000円であり、国が設定しているおよそ1万3,000円への加算設定を早期実現に向けて取り組んでいるのか。

(答弁) 本市は、第6期鈴鹿市障害福祉計画に加算制度創設を明記している。国、県との連携を含めて早期実現に向けて取り組む。

その他の質問 ○コロナワクチン接種 ○総合計画2023の進捗

